

# 『Y君の成長を促す』 ～ごっこ遊びを通して～



社会福祉法人 愛護会

東水沢保育園

保育士 畠山 叔恵

## 1. 研究主題

豊かな心を育てる保育のあり方

『 Y君の成長をうながす 』

～ごっこ遊びを通して～

## 2. 主題設定の理由

近年少子化や両親の共働き、核家族の増加で親も子どもとの遊び方が分からなかったり、子ども自身も遊びに対して積極的ではない子も多くなってきているように感じる。また、親が子どもとの接し方が分からず上手く関わっていない、そのことで子ども達同士上手く関われずにいるように感じる。

保育所保育指針、第2章子どもの発達、2・発達過程によると、おおむね3歳では『自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には、同じ遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになる。予想や意図、期待を持って行動できるようになる。』とある。また、おおむね4歳では『想像力が豊かになり、目的を持って行動し、つくったり、かいたり、試したりするようになる。』とある。

ごっこ遊びは、子どもの成長を促していくうえで、とても重要である。子ども達は、ごっこ遊びをすることで、この役はこうあるべきだと言うルールに従い、自分の知っている最高の物を演じていく。ごっこ遊びの中では子ども達自身が、ちょっと背伸びができる、自分自身で成長することが出来る遊びなのである。この事を考えても、3・4歳児は、ごっこ遊びの虚構世界を友達と一緒に共有することがとても大事であると考えられる。

私の担任する3歳児クラスは、4月、男児10名、女児7名、計17名でスタートした。うち、新入児は2名、在園児は15名である。子ども達同士のつながりも強いクラスで、友達と一緒に遊ぶ姿が多くみられた。しかし、その中で、友だちの中に入らず一人で遊ぶY君の姿が気になった。周りの子ども達に比べて、発達が遅れているところもみうけられる。

そこで、ごっこ遊びを充実させていく中で、Y君の成長を促していくこと、また、ごっこ遊びを通して、Y君の成長はもちろんクラスの子も成長していくことが『豊かな心を育てる保育』につながるのではないかと考えた。

## 3. 研究のねらい

(ア) 友達との関わりを深め、共通したイメージを持って遊びを楽しむ。

(イ) 気づいたことを言葉で言ったり、遊びに取り入れたりしながら人との関わりを育む。

(ウ)身の回りの大人の行動や日常の経験を取り入れて再現して遊ぶことを楽しむ。

#### 4. 研究の仮説

- ・ごっこ遊びをしていく中で、Y君が成長していき、友達との関わりも楽しめるようになるのではないだろうか。
- ・保育士との信頼関係の中で、自分の気持ちや考えを安心して表すことが出来るようになり、そこから他の存在、友だちをはじめ人の存在に目を向け友達との関わりを作っていけるようになるのではないかと、ごっこ遊びを十分に楽しむことで子ども達の豊かな心を育てられるのではないだろうか。
- ・ごっこ遊びを楽しんでいく中で、Y君との関わりを通して、クラスのみならず成長していくことが出来るのではないだろうか。

#### 5. 研究方法

- ・クラス集団、子ども一人ひとりの姿、発達について把握する。
- ・クラスの友達とY君の関係を探る。
- ・様々な遊び、ごっこ遊びを行っていくことで、Y君はもちろんクラスのみならず楽しんで遊び、その中でY君と友達との関わりが持てるような活動の設定の仕方、援助のあり方を探る。

#### 6. 実践

私は、今年度第二東水沢保育園より東水沢保育園に異動になり、新しい環境、子ども達とスタートした。そこで、まずは子ども達との信頼関係を作ることからはじめた。前年度の担任からは、人数も少ないこともあってか、子ども達同士のつながりが強いクラスと引継ぎを受けていた。友達と関わって一緒に遊ぶ姿が多くみられるなか、Y君が友達と一緒に遊ばず一人で遊んでいることが多いことが気になった。

##### Y君の状況を探る

Y君は兄が昨年まで年長児で在園していて、幼児教室にも通っていたとのこと。今は小学校に入学し普通学級で学習、生活している。Y君も気になる面があり、新しい環境が苦手であったり、こだわりが強かったり、みんなで遊ぶ輪の中に入ることを嫌がったり、自分の思いを言葉で伝えることができないなどがある。排泄もトイレで出来るのだが、保育士が節目、節目で子ども達にトイレに行くよう声をかけても、「Y君いかない!おしっこでない。」とトイレに行くのを嫌がる。排泄の間隔が短いのか、少しだけもらしてしまったりしてパンツが濡れていることが多い。また、濡れてしまっても教えず、保育士が「濡れてるよ。取り替えよう。」と声をかけるとようやく着替えたり、時には着替えるのを嫌がる時もある。そこで、Y君との信頼関係を築きながら、基本的な生活習慣を身につけさせると共に、Y君の好きな遊びを探り、遊びが十分に楽しめるように働きかけていくこととした。

ごちそう作りをしよう！

4月から天気の良い日は外へ出て遊んだ。Y君も外で遊ぶことは好きで、喜んで外へ出て行く。Y君は、砂場に行くものの何か作って遊ぶというより、砂を掘ったりして遊ぶことが多い。集中して遊ぶ時間も短く、すぐに違う遊びへと行ってしまふ。そこで、Y君が集中して遊べるように、いろいろ工夫していくことにした。

～草花を摘んできてのごちそう作り～

畑の原っぱや、散歩に行った際に草花を摘んで園に持ち帰り、それを使ってごちそう作りをする。カップで型抜きした上に摘んできた花を飾ってみせると、みんな「わたしもやりたーい」と興味を示してみんな喜んでごちそう作りを楽しんだ。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
<p>・それぞれ草花やスコップや型抜きの用具を使ってごちそう作りを楽しむ。</p> <p>・Y君が何個も型抜きをしているのを見て、「お花のつけてあげる」「じゃあ、Mはお砂糖かけてあげるね」とY君が作った型抜きに飾り付けし、そこからプリン屋さんごっこに発展していった。</p>	<p>・スコップを持ってきて砂場に穴を掘ったり、山を作って遊ぶ。</p> <p>・自分の作った型抜きに飾り付けされても嫌がることは無く、SちゃんとMちゃんが飾り付ける様子を見ながら作り続ける。</p>	<p>・Y君のそばに行き、カップに砂を入れて「プリンの出来上がり～」と型抜きして見せる。</p> <p>・Sちゃん、Mちゃんが開いたお店屋さんにお客さんになって買いに行く。おさらやスコップを持っていき、お店屋さんがやりやすいようにしていく。</p>	<p>・保育士の真似をして型抜きを試みる。一つ出来ると「先生ほらー。みて。」と見せにくる。何個も型抜きして楽しんでいた。</p> <p>・徐々に「いらっしやいませ～」と声を出しお店屋さんになって遊び始める。</p>

考察

この日は、Y君もとても集中して遊ぶ事が出来ていた。型抜きのやり方をやって見せたことでY君も砂を詰めて型を抜くということが出来るようになり、同じ事を繰り返し楽しんでいった。また、Sちゃん、MちゃんがY君の遊びに入ってきたことでY君もお店屋さんになって遊ぶ事が出来たように思う。

動物になって遊ぼう！

4月から遊んでいた遊びの中で、“動物になって身体を動かす”という遊びを取り入れてきた。初めは、ピアノに合わせてホールの中を歩いたり、走ったりして遊んでいた。そのあと、カエルになったり、ウサギになったり、ゾウになったりといろんな動物になってホールの中を動き遊んでみた。他の子どもたちはとても喜んでいて

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物になりきって身体を動かして遊ぶ。</li> <li>・Y君を呼んでこようと頼まれていない子も一緒になって「わー」とY君の所に押しかけてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やらな～い」とホールの隅の方に行き友達の様子を見ていたり、寝っ転がったりしている。</li> <li>・呼ばれても遊びの中には入らず様子を見ている。</li> <li>・Y君は活動に入る事を嫌がって逃げていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Y君もやって遊ぼうよ」と誘うが来ない。</li> <li>・友達が誘ってくれたら遊びに入ってくるかもしれないと思いY君と仲の良いS君に「一緒にやろうって呼んで来て」とお願いしてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに追いかけられているときのY君の表情はとても楽しそうだった。</li> </ul>

考察

私や友達が何度も誘ってはみたが、Y君はみんなと一緒にやろうとはせず、この遊びにはあまり興味を示さない。しかし、みんなに追いかけてとても楽しそうにしていたY君の表情から、「追いかっこ」「鬼ごっこ」だったら、“Y君もみんなと一緒に遊べるかもしれない”と考え、活動に取り入れることにした。

鬼ごっこをして遊ぼう！

～鬼だぞー！！～

最初は保育士が鬼になり子ども達が逃げてあそぶという一番シンプルな鬼ごっこをして遊んだ。クラスみんなはもちろん、Y君も鬼ごっこは嫌がらず喜んで遊ぶことができた。

～むっくりくまん～

鬼ごっこを楽しんで遊べるようになってきたので、次は、むっくりくまんの鬼ごっこをして遊んでみることにした。中に入るくまん役の子は、お面を付けて誰

がくまさん役かすぐ分かるようにした。くまさんにつかまった子が次のくまさんになるというルールで遊びを始める。この遊びは2歳児クラスの時も遊んだことがあったようで、みんなすぐにルールを理解して遊ぶことが出来ていた。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
<p>・ルールもすぐに理解して喜んで遊ぶ。捕まらないように逃げたり、捕まりたくてくまさんの近くに行く子がいた。</p>	<p>・遊びが始まる前はみんなの輪の中には入らず砂場のところで様子を見ている。</p> <p>・くまさんのお面を付けて友達を捕まえようと楽しみながら走っていた</p> <p>・集中する時間は短く、自分がくまさん役をやってしまうと、輪から抜けて様子を見ていたり、他の遊びを始めたりすることが多かった。</p>	<p>・「Y君も一緒にやろうよ」と声をかけ誘う。</p> <p>・様子を見ながら何度か声をかけ誘ってみる。</p>	<p>・保育士の誘いかけに嫌がらずに、輪の中に入ってくる。ルールも理解して遊ぶ事が出来た。</p> <p>・誘われてもむっくりくまさんの遊びには入ってこず、滑り台や砂場で遊んでいた。</p>

考察

単純な鬼ごっこから、むっくりくまさんとみんなであそぶ遊びをしたところ、とても楽しんで遊ぶ事ができた。鬼ごっこ・追いかけっこはY君の好きな遊びであったので喜んで遊べたと思う。集中する時間は短いので、少しでも長い時間遊べるよう働きかけをしていきたい。

～あぶくたった～

むっくりくまさんの遊びにも慣れてきたので、次はあぶくたったの鬼ごっこをしてあそぶ。これもY君も嫌がらず遊ぶことができていた。これも始めのうちは楽しんで遊ぶが、しだいに飽きてきて違う遊びへと移っていく。

明峰支援学校の先生来園

8月に明峰支援学校の先生が来園することになり、各クラスの気になる子の様子を見てもらうことになった。この日の活動は運動会も近いので、みんなで笛の合図に

合せて目標物まで走ってきたり、タイヤを並べて両足でジャンプしたりと身体を動かして遊んでいた。日によってはみんなとすることをいやがったりするY君だったが、この日は嫌がったりすることはなく、保育士が出すクラス全体への指示を聞き動くことが出来ていた。

～明峰支援学校の先生より～

以前、Y君の兄のことでY君のことも気になっていてとのこと。やはり、こだわりが強かったりするようなところもあるが、今のところは保育士の全体に向けた指示で理解して動いていたということで、そんなに心配ではない。Y君のお母さんにもこれからY君のためにも幼児教室に通うように話しをしていってみたいとのことだった。

～Y君のお母さんの考え～

明峰支援学校の先生が来園する前に、Y君のお母さんも幼児教室にとりあえず体験してみるということで、一度Y君と幼児教室へ行ったことがあった。その時は用事もあり、朝のあそびの所だけで、朝の会が始まる時間には帰ってきたとのこと。今後、お母さんは幼児教室のことについてどうしていくと考えているのか聞いたところ、『今は、私自身の余裕が無いんです。仕事とか引越しかで忙しいのもあります。余裕ができたらまた考えていきます。』とのことだった。

～Y君のお母さんの考えを受けて～

主任、園長に相談したところ、『とにかく、Y君の日々の様子をお母さんに伝え、幼児教室の必要性を伝えて行きましょう』と助言をいただく。私も、お迎えに来た際には、Y君の日々の様子を出来るだけ伝えていくようにした。

劇ごっこ遊び

11月になり、そろそろ12月の発表会に向け劇の練習が始まると考えたときに、いきなり台詞練習に入るのでは楽しめず、発表会に対する期待も持てないのではないかと考え、クラスで簡単な劇ごっこを行い楽しんでから、劇練習へとつなげていこうと考えた。

劇ごっこをするにあたり、どんなお話がいいかな？と考えたときに、繰り返しがあって理解しやすいお話がいいと思い、『3びきのこぶた』のお話にすることにした。

～3びきのこぶたごっこ～

まずは、保育者が『3びきのこぶた』の絵本を読んで聞かせた。すると意外なことに、このお話を知らない子もいた。子ども達が分かりやすいように、画用紙に、わら・木・レンガの家の絵を描いたものをはり、保育者がおおかみ役になって遊びはじめて見た。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・おおかみが来ると「きゃー」と声をあげて逃げるが、あまり続かずおわってしまう。	・じゅうたんのところに座ったり寝転んだりしながら、友達が遊ぶ様子を見ている。	・おおかみになりきって遊び、家に隠れたこぶた役の子ども達のところへ行ったり、Y君の所にも「おおかみだぞ〜！」と行ってみる。	・Y君は相変わらず、じゅうたんのところで寝転んでいる。

考察

『3ひきのこぶた』のお話は、知らない子もいたこともあったのか、全体的に盛り上がりせずすぐに終わってしまった。Y君もみんなと一緒にやろうとはせず、様子のみでいるだけだった。みんなが楽しんで遊んでいないことには、Y君も輪の中に入ってこられないと考え、他のお話でやってみることにした。

～7ひきのこやぎごっこ～

『7ひきのこやぎとおおかみ』のお話で、劇ごっこをして遊んでみることにした。このお話は、昨年度の発表会の以上児劇だったこともあってか、知っている子どもも多く反応が良かった。絵本を読んでから、保育士がおおかみ、子ども達がこやぎと役を決め、「こやぎはおおかみに食べられないように隠れてね」と話し遊びを始めると、みんな喜んで隠れていた。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・どの子どもお話を知っているの役になりきって遊び楽しんでいた。	・ロッカーの中に入り「Y君やらない」とみんなが遊ぶ様子を見てる。	・「Y君も一緒にやろう」と誘ったり、友達にY君を呼んでてもらったりと働きかけてみる。	・誘われてもロッカーの中に入ったままみんながあそぶ様子を見ていた。

考察

クラスみんながお話を理解し、楽しんで遊んでいたのだが、Y君は遊びの中に入ってこなかった。保育者や友達が誘っても入ってこない。どうしたら、この遊びをY君も楽しめるだろうか...?と考え、Y君の好きな鬼ごっこの要素を取り入れてみることにした。

～7ひきのこやぎ鬼ごっこ～

どうにかしてY君も遊べるようにしたいという思いから、『7ひきのこやぎ』のお



話に『あぶくたった』やり方を加えてみた。おおかみ役が家にやって来て「とんとんとん」とする。すると、今度はこやぎ役が「だれですか？」と聞いて、「おおかみだぞー！」とおおかみがきたら逃げて、おおかみに捕まったら次のおおかみ...というように鬼ごっこにして遊んでみた。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・鬼ごっこの要素が加わったことで、よりこのごっこ遊びを楽しんで遊ぶ事が出来ていた。	・はじめは様子を伺っていたが、みんなが「きゃー」と声をあげて逃げるのを見て、一緒になって逃げ鬼ごっこを楽しんでいた。	・あまり複雑にはせず、出来るだけシンプルな遊び方にするようにした。保育者も一緒に遊ぶ中で、無理に声はかけずY君が友達と一緒に遊ぶ様子を見守っていた。	・『劇』ではなく『鬼ごっこ』になったことで、Y君自信笑顔を見せ遊ぶ事ができた。

～鬼ごっこから劇ごっこへ～

この遊びをもっと楽しめるようにと、一人ひとりこやぎのお面を作ってそれを付けて（保育者はおおかみのお面をつけて）遊んだ。みんな喜んで遊ぶことができた。“七匹のこやぎごっこ”は子ども達の好きな遊びの一つとなり、「今日も七匹のこやぎしようよ」という子がでてくるほどだった。そのうち、「ぼくおおかみやりたい」「わたしはお母さん」「ぼくはお父さんやりたい」など役をきめて遊ぶようになり、遊びを進めていくうちに『「とん、とん、とん」「だれですか？」「おおかみだぞー！』』というシンプルな遊び方から、「お母さんなら足を見せてよ」「お母さんの足はこんな真っ黒な足じゃないぞ！」と言うセリフが出てきたりして、七匹のこやぎごっこは、鬼ごっこから簡単な劇ごっこへと変っていった。

<Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・それぞれになりたい役になって、言葉のやり取りを楽しむ。 ・自分達で考えたセリフを行って楽しむ。	・劇ごっこになるとY君は入りたがらず、黙ってみたり、保育士が誘っても、「Y君疲れた～。やらない。」と言って寝転んでしまった。	・「先生と一緒にやろう？」「何がいいかな？おおかみ？」など声をかけ無理のないよう誘ってみた。	・誘われても「やらない」と言って、じっと友達が遊ぶ様子を見ている。

## 考察

鬼ごっこ的な遊びのときは、喜んで遊んだのだが、“何かの役になって遊ぶ”ということは嫌いなようだ。鬼ごっこでは、決まった言葉のやり取りだが、劇ごっこになると決まりきった言葉だけではなかったり、セリフが長くなったり、自分で考えた言葉を話したりすることも出てくる。自分の思いがうまく話せないY君にとっては、そのことも苦痛の一つになって「やりたくない」と言ったのかもしれない。

この頃は遊び以外でも、「Y君疲れた～。眠い～。」と言って寝転がることが多くなり、気になり始めた。今後、発表会に向けて劇練習も始まるので、Y君が積極的に劇練習に参加し、楽しんで出来るような働きかけを考えていかなければならないと感じた。

## 南幼児教室の先生来園

12月初め、他クラスで気になる子の様子を見るため来園していた。その時は、劇の練習中で自分の出番を終えたY君は外に行くのを嫌がりぐずぐずして、私が音響やピアノの伴奏をしているところで、一緒に抱っこしたり劇練習の様子を見ていた。そのうち、私がピアノを弾いているときはピアノのイスの下にもぐりこんだりしていた。その後、Y君の様子を見ていた南幼児教室の先生と話しをする。

幼児教室の先生もY君のことを気に掛けていたようで、最近のY君の様子などを話した。以前、Y君がお母さんと幼児教室の体験に来たあとに、先生の方から何度もY君のお母さんに連絡をしていたとのことだった。幼児教室に体験で行った後、お母さんが『今は自分に余裕が無くYも幼児教室に連れて行ったほうが良いとは思いますが、今は行けない』と言っていたことを話した。それから、いくらか日も経っていたため、今お母さんがどういう風にY君のことや幼児教室のことを考えているのか聞いてみることにした。

### ・Y君のお母さんの反応

次の日のお迎えのときに、南幼児教室の先生が来園しY君の様子を見ていったことを話す。すると、お母さんの方からも「先生ですよね？」とY君の兄が幼児教室に通っていたときの先生で知っているようだった。お母さんの話によると、幼児教室から何度か電話をもらっていたとのこと。Y君の発表会練習中の様子などを話しながら、やはり集団での生活の他に、個別・小集団での関わりが必要であることを話すと、「ゆり組になったら（来年度）幼児教室に行こうと考えていた。（幼児教室から）電話もかかってくるので、こっちからかけてみます。」という返事だった。このことは、園長・副園長・主任にも報告し、お母さんから連絡するということから、引き続きY君の日々の様子をお母さんに伝えていながら幼児教室の必要性を知らせていくこととした。

## 表現発表会

12月に入り表現発表会の練習が始まった。Y君は相変わらず、朝から「眠い」「疲れた」を連発しゴロゴロとしていることが多い。「練習に行くよ」と保育士が声をかけてもすすんで来ようとする事が無く、保育士に手をひかれしぶしぶ...という感じだった。しかし、自分の出る場面にはそれほど嫌がることもなく他のみんなと同じように練習に参加していた。セリフも恥ずかしくてうつむきながらだが言えた。早くセリフを覚えて自信を持てれば、劇練習にも楽しんで参加できるのではないかと、お昼寝の前の時間や、遅番の時間などちょっとした時間のあるときに「『おじいさんがんばって』って言うてみて?」「Y君、劇で何て言うんだっけ?」とセリフの練習を試みた。個別の練習を行っていく中で、徐々にセリフも覚えてきた。自分のセリフを言う番になると私の顔を見てくるので、『言っているよ』というようにうなずき合図を送ると、大きな声ではないがセリフを言えるようになってきた。また、動きがあるところでもしっかりと覚えて動くことができていた。

しかし自分の出番以外では、ゴロゴロしてしまうことが多かった。自分の出番が終わると最後のフィナーレまで間が空いてしまうため集中力が途切れてしまい出るのを嫌がっていた。また、本来であれば私が子ども達と一緒に待機して出番に出してあげるところだったのだが、今回はピアノ伴奏兼音響の係になり子ども達と一緒にいることが出来ず他の職員がつくことになった。そのことで、余計にY君の気持ちの持っていく方、立ち直らせ方が難しくなっていた。

### ・母親への働きかけ

私自身、大丈夫かな?ちゃんと待ってられるかな?自分の出番の時は嫌がらずに出てきてくれるかな?と不安なところもあった。本番が近づくに連れて通し練習となり、ますます一緒にいる時間が少なくなった為、練習が終わってから上手に出来たときには思いっきり誉めて少しでもやる気につながるようにと、関わっていった。また、Y君のお母さんには私が今回は音響係で他の職員がついていること、ゴロゴロしたり嫌がったりすることもあること、しかし自分の出番ではしっかりとセリフを言えている事等、Y君の様子を詳しく話し伝えるようにしていった。そして、上手に出来たときやY君の頑張りを伝えお母さんにも誉めてもらえるように話しをしていった。お母さんもY君が上手に出来たということを聞くととても嬉しそうな表情を見せ、次の日連絡帳に『おうちでもいっぱい誉めました』『はじめてセリフを言ってみせてくれました』など喜びの声がかかれていた。発表会当日は、いつもとは違う雰囲気、大勢のお客さんで嫌がるかな?出ないって言うかな?などいろいろと不安だったが、私の予想とは違って、自分の出番をしっかりと演じ、また最後のフィナーレではいつも最後にいやいや出ていたが、本番では自分の場所にしっかりと並んで出てくることができた。本番を向かえY君の成長を大きく感じる事ができた。お母さんも、『もしかしたら本番は出来ないかもしれない』と思っていたようで、Y君が劇で堂々と演じられた事をととても喜んでいてくれた。

### 新聞紙遊び～だんご屋さんごっこへ

新聞紙あそびをしていた時の事。私が新聞紙を小さく丸めていたのを見ていた子の「それ、おだんごみたいだね」という一言から、私がだんご屋さんになり遊び始めた。すると、子ども達もだんごを買いに来て遊び楽しんだ。次の日、「今度はみんなでだんご屋さんになって遊ぼう！」と新聞紙でだんごを作り遊ぶ。新聞紙で買い物かごや、だんご屋さんの帽子を作ってあげると、とても喜んで遊んでいた。だんご屋さんになったり、お客さんになったりと役を変りながらみんなで楽しむことができた。

### <Y君の様子>

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・だんご屋さんになったり、お客さんになってだんご屋さんごっこを楽しむ。	・新聞紙のだんごをカゴいっぱいに入れたり出したりしてあそび楽しんでいたが、しだいに「お店屋さんになりたい」と訴えてくる。	・新聞紙でカゴを作って渡し、買い物が楽しめるようにしていった。	・保育士が「いいよ」と言うと喜んでお店屋さんの側にいき、他の子達がやる様子を見て真似しながら遊んでいた。

### 考察

だんご屋さんという分かりやすいお店だったこともあるのか、Y君が喜んで遊ぶ様子が見られる。お店屋さんごっこは、売る側と買い手側とのやりとりがあるので、この活動から、簡単な言葉のやり取りも出来るようになっていき、自分の気持ちも言葉で言えるようになって友達との関わりも増えていくのではないかと、思いだんご屋さんごっこを続けることにした。

### ～だんご屋『八代屋さん』の来園～

新聞紙のだんご屋さんごっこを楽しんだころ、おやつにだんご屋の『八代屋さん』が来園し、実際に自分の好きな味のだんごを選び、お店の人とのやりとりを体験することができた。

### ～小麦粉粘土を使っただんご屋さんごっこ～

園にだんご屋さんが来た体験をもとに、今度は小麦粉粘土でだんごを作りだんご屋さんごっこをすることにした。タレも小麦粉糊に絵の具で色付けし刷毛で塗るようにした。すると、子ども達も本物みたいなだんごに大喜びで遊んでいた。

< Y君の様子 >

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・“本物のだんご屋さんになったみたい”と喜びだんごに刷毛でタレを塗る事や買い物を楽しんでいた。	・だんご屋さんになって刷毛でタレを塗るのを楽しむ。しかし、お客さんとの言葉のやり取りが上手くできず、黙ってだんごを作り渡していた。	・保育士と一緒にお店屋さんになり「『いらっしやいませ。何個ですか？』って聞くんだよ。」 「はいどうぞ。」など言葉を添えて教えてあげる。	・始めは真似をしながら、徐々にお客さんとのやりとりもできるようになってきた。

～『八代屋』見学～

後日、「だんご屋さんのお店ってどんなところかな?」「見に行ってみたいね。」と子ども達と話し合い、園長に相談し、実際にだんご屋さん『八代屋』を見に行ってきた。八代屋のおじさんもおばさんともとても良い方で、快く迎えてくれ、子ども達の質問にもいろいろと答えてくれた。

実際にだんご屋さんを見に行ったことで子ども達も更に盛り上がり、後期の保育参加日に向けて看板やのれんを作ったりすることが出来た。作る過程で4つのグループに分かれて保育士も入りながら、グループの友だちと相談して(話し合っ)決めながら進めていった。

< Y君の様子 >

クラスの様子	Y君の様子	保育者の援助	Y君の変化
・グループに分かれたことから、K君もY君のことが好きで一緒に遊んだり、Y君のことを気に掛け手伝ったり、「Y君一緒に行こう!!」とY君のことを引っ張って行ってくれた。	・だんご屋さんのことが分かって、ごっこ活動は嫌がることもなく、喜んで行っている。 ・簡単ではあるが、「あんこ1つですね?」「はいどうぞ」と自分で言っていた。	・Y君のグループにはY君も一番一緒にいることが多いK君を入れてあげた。	・分からなくなっても、同じグループの友達が教えてくれたり、手伝ってくれるので、Y君も嫌になったり、止めてしまったりと言うことが無かった。

保育参加日～親子でのだんご屋さんごっこ

保育参加日には、Y君とお母さん、そしてY君のお兄ちゃんと一緒に参加する。前期の保育参加日は妹の体調不良のために欠席した為、Y君自身がどんな行動をとるのかな?もしかしたら親達がいる中で、嫌がったり、お母さんに甘えて離れられなく

なるかもしれない...と考えていたが、実際は機嫌も良く、朝の会も一人できちんと座り、活動にも嫌がらずに参加することが出来た。

だんご屋さんごっこでは、始めはお店屋さんをしたが、途中でお客さんになると買うことが楽しかったようだ。グループ交代でお店屋さんをやった後、次は子ども達だけでお店屋さんを行おうとしたが、なかなか準備が出来なかったのでお母さんにどうしたのか尋ねてみた。すると「お客さんがやりたい」とのこと。「じゃあ、Y君はお母さんとお客さんやっていいよ」と話すと機嫌も直り、それ以降はお客さんになって楽しむことができた。保育参加日は、お母さんにY君の園での様子を見てもらえるとてもよい機会となった。

### Y君の変化

健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外での遊びは好きなので積極的に取り組むことができる。</li> <li>・ 運動面では、意欲的に取り組むが、鉄棒やうんていなど腕の力が必要なものになってくると弱いところもある。</li> <li>・ 排泄面では、失敗することはだいぶ少なくなってきたが、時々もらしてしまったりすることもある。その時は自分で着替えをしようとするが、汚れ物の後始末がきちんとできず、手助けが必要である。排便も園ですることもあるが、排便することを知られるのが恥ずかしいようで、静かにトイレに行く。おしりをふくことはまだ上手にできないので、拭き方を教えながら補助している。</li> </ul>
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちと関わって遊ぶ姿が多く見られるようになり、仲良しの友だちと一緒にいることが多くなってきた。以前は、誰か特定の子が良いということは無かったが、「K君とあそぶの」「S君の隣がいい」と言う様にもなってきた。こだわりが強く嫌なことがあると寝ころんだりして、活動に入ってこなかったり、次の活動に移れなかったりしていたY君だが、『君(ちゃん)と一緒にいい』『君(ちゃん)とならできる』という思いがY君の中に出てきたことから、クラスの子にY君を連れてきてもらったり、一緒に行動してもらったことから寝転んでいることは少なくなってきた。個別に声を掛けなくてもクラス全体に声を掛けたのを聞いて行動もできるようになってきた。</li> <li>・ 一番に終えた時や、上手にできた時などは「すごいね～もう終わったの？Y君カッコいいよ。」「次は～するよ。できるかな？」など誉めたり、次の行動を促していった。Y君も自分で出来たことで少しずつ自信もついてきたように感じる。</li> <li>・ お当番活動もはじめた。Y君もお当番を喜んで行っている。以前よりなんでも自分でやろうとし、なかなかできないことがあって、保育士が手伝おうとすると、「Y君自分でするの。」と手伝われることを嫌がったりするようになってきて、そのことを母親に話すととても喜んでいて、日々の活動、更にお当番での活動などを通して、Y君の成長を感じられるようになってきた。</li> </ul>

環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虫や生き物に対しても怖がらず興味を示し、触れることができる。</li> <li>・畑活動にも積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉も少しずつ増えてきて、担任の私に対しては「せんせ～ するの?」「Ｙ君ね した。」「××できないの。」など自分から話してくることも増えてきた。発音はまだはっきりしない言葉も多い。</li> <li>・友だちとも楽しく話しながら遊ぶ姿がみられる。</li> <li>・まだまだ話してくる言葉が少なく、自分がしたいこと嫌だったことなど言葉でうまく伝えることができず泣いて怒ることもあるが、保育士が思いを代弁してあげることで、気持ちの切り替えも出来るようになってきた。</li> </ul>
表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙など複雑なこと、考えてやらなくてはいけないことは、理解しきれないこともあり補助が必要である。</li> </ul>

## 7. 今後の課題

今後は、Ｙ君が自分でやろうとする気持ちが強くなってきたので、4歳児クラスに向け、一つ一つ出来たことを認めながら、自信をつけさせ、Ｙ君の成長につなげていきたい。また、お互いに友だちのことを思い合い助け合えるクラスを作っていきたいと思う。そして『来年度(4歳児)になったら幼児教室に行ってみる』とＹ君のお母さんが話していたが、Ｙ君の今後の成長を考えても幼児教室での個別の関わりも必要だと思われるので、引き続きお迎えのときなどＹ君の園での様子を伝えながら、お母さんとの信頼関係も深め、幼児教室に行くことをすすめていきたい。そして、幼児教室に通うことになった際は、私自身も幼児教室でのＹ君の様子を見たり、Ｙ君に対してどう関わっていけば良いか学んでいきたい。

## 8. まとめ

いろいろな遊びを取り入れ1年間活動してきた。子ども達もごっこ遊びを楽しみ、それぞれの役になりきってあそび、友だちとのやりとりを楽しんできた。Ｙ君もいろいろな遊びを通して4月にくればずいぶんと変ってきた。友だちと関わって遊べるようになり、みんなと同じ遊びも楽しめるようになってきた。しかし、自分が興味を持たないことややりたくないことには入ろうとせず『眠い・疲れた』とゴロゴロすることもある。私自身、“Ｙ君を活動の中に入れなくてはいけない”“クラスの輪の中に入れなくてはいけない”という思いが強く、Ｙ君が他にやりたいことは何だろう?と考える活動することが少なかったように思う。もっとＹ君の楽しめる活動が他にあったのではないかと思い反省する。

言葉に関してはまだまだ話してくる言葉が少なく、自分がしたいこと嫌だったことなど言葉でうまく伝えることができず泣いて怒ることもあるが、保育士が思いを代弁してあげることで、気持ちの切り替えも出来るようになってきた。

また、Ｙ君だけではなく、クラスの子ども達にも変化が出てきた。Ｙ君のことを気

に掛けて手伝ってくれたり、Y君の事を誘ってくれたり、連れてきてくれたりするようになった。そこからY君だけではなく、他の友だちのことにも目を向け、「ちゃん~できるようになったね。」「~するの上手だね」気づく子ども出てきた。子ども達が体験したことを活動に取り入れ、ごっこ遊びにしたことで子ども達の関わりが豊かになってきている。

今年1年間、たくさんのごっこ遊びを行ってきて、Y君が12月頃から気持ちの切り替えが早く出来るようになってきたり、やる気の面でぐっと成長してきたこと、またY君のみならず、Y君との関わりを通して周りの子ども達も成長してきていることから、ごっこ遊びには本当にすごい力があることに改めて気づいた。これからも、様々な遊びはもちろんのこと、ごっこ遊びを十分に行っていくことで、Y君や他の子ども達の成長を促していきたい。